資料2

高知港海岸景観・利便性等検討会の枠組み

平成28年11月 8日

高知県土木部港湾・海岸課

国土交通省四国地方整備局

高知港海岸景観・利便性等検討会の枠組み

高知港における地震津波防護の対策検討会議（H25年～H28年）

○逼迫する東南海・南海地震等による被害の軽減対策が急がれる高知港において、「多重防護」の考え方の下、「最大クラスの津波」の襲来も想定しつつ、「発生頻度の高い津波」に対して、港湾及び背後地を効率的・効果的に防護するための対策のあり方について検討することを目的とする。

○「高知港における地震・津波対策の基本的な考え方」、「高知港における地震・津波対策の概要（三重防護）」について最終取りまとめを実施（Ｈ２８年５月）。

高知港海岸景観・利便性等検討会

【目的】
・景観・利便性等に配慮した整備を進めていくため、学識経験者の助言を頂く。

【内容】景観・利便性等に関する配慮事項等

【委員】
・磯部　雅彦（高知工科大学 学長）
・重山　陽一郎（高知工科大学 教授）
・原　忠（高知大学 教授）
・大倉　美知子（ｶﾗｰｵﾌｨｽPERSONAL 代表）
【関係者】高知県、高知市、四国地整
【事務局】高知県、四国地整

【主務】高知港湾・空港整備事務所

高知港海岸地震津波対策技術検討会

【目的】
・高知港海岸（直轄区間）の整備をより効率的・経済的に進めていくため、技術的な観点から対策の妥当性等について専門家の助言を頂く。

【内容】地震津波対策（断面・工法）の妥当性等

【専門家】
・菅野　高弘　（港空研 上席専任研究員）
・野津　厚　（港空研 地震防災研究領域長）
・鈴木　高二朗（港空研 耐波研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ長）
【関係者】高知県、高知市、四国地整
【事務局】四国地整

【主務】高松港湾空港技術調査事務所

連携・調整

四　国　地　方　整　備　局

地元との調整・合意形成

○ 断面イメージの説明、利用・景観上の意見、要望について聴取
○ 検討会で審議された断面や利用・景観上の対策について地元説明

高知港海岸事業概要(参考)

【事業の目的】

南海トラフ巨大地震・津波に備えるため、高知港海岸においては、三重防護の方針により海岸保全施設を整備することで、地域の安全・安心を守る。

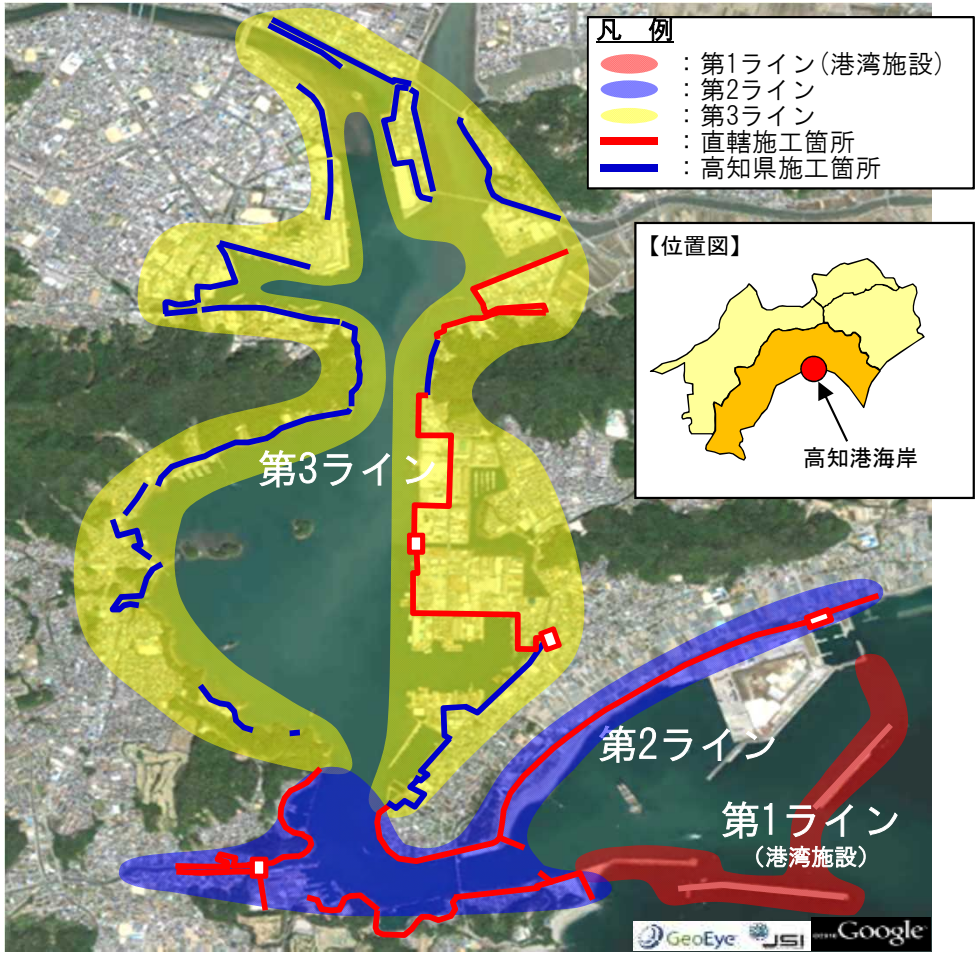
【事業の概要】

・整備内容：

第1ライン：港湾施設
第2ライン：海岸保全施設
　津波防波堤(230m)、水門(1基)、陸閘(1基)、
　堤防(改良)(2,928m)、護岸(改良)(5,309m)、
　胸壁(改良)(3,172m)、陸閘(改良)(27基)
第3ライン：海岸保全施設
　水門(2基)、護岸(改良)(10,092m)、
　胸壁(改良)(4,933m)、陸閘(改良)(72基)、
　堤防(改良)(2,570m)

・事業期間：平成28年度～平成43年度

・総事業費：600億円（うち、直轄事業は350億円）



高知港海岸における三重防護のイメージ